



小野中学校だより
第 24 号
文責：校長 大河原久宗
2019.12.3.TUE

TEL:72-3355 FAX:72-2829

＜教育目標＞

- 【夢～自立・友愛・健康】
- ・課題を持ち、進んで学ぶ生徒
 - ・互いのよさを認め、高めあう生徒
 - ・健康で、心身を鍛える生徒



「夢への挑戦！」を続けるために！

12月3日(火)、各生徒会委員会の活動の活性化を図るとともに、活動内容についての理解を深めることをねらいとして「第2回生徒集会」が行われました。学校生活を見直すために、「あいさつ日本一」の学校を目指して取り組んでいる「あいさつ強化デー」の反省を行いました。反省内容は省略しますが、よりよい小野中学校にするためには、「気づき、考え、実行する」態度が必要です。「プラス1」の心を持ち、「あいさつ日本一」の学校を目指し、さらにすてきな小野中学校をみんなで築いていきましょう。集会では、「夢への挑戦！」を続けるために大切な心として、『のび太の感動する話』を紹介しました。また、「夢への挑戦」は一人ではできません。「チーム小野」ワンチームになることが必要です。特に3年生は高校入試がスタートします。「入試は団体戦」ですね。そのために「天国と地獄」（昨年度にお話した）のお話を裏面に載せましたので読んでくださいね。「助け合おう心・思いやる心」がいっぱいの学校にしましょう。

「のび太の感動する話」（「あの日あの時あのダルマ」：第18巻より）

のび太君はテストの前日、ママが大事にしていた”プラチナの指輪“をなくしてしまいました。
「これからママにたっぷり叱られるとことを思うと、とても勉強できない」とドラえもん泣きつきます。



ドラえもんはポケットから「なくし物とりよせ機」を出しました。ハッキリとなくした物の形を思い出せば、それが出てくるといふ道具です。なくした指輪を取り返したのび太君に、勉強するよう話すドラえもんですが、のび太君は今までなくした物を全部取り寄せました。

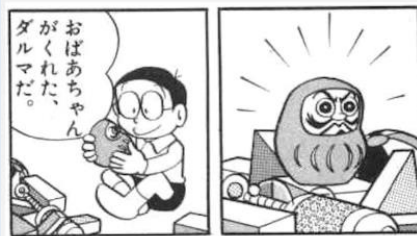
ママに捨てられたマンガや、ジャイアンに取り上げられた模型飛行機、谷へ落としたムギワラ帽子などをはじめとして、様々なものを出していきます。

昔を懐かしむのび太君に、ドラえもんは言います。
「過ぎた日を懐かしむのもいいけどね、もっと未来へ目を向けなくちゃ。振り返ってばかりいないで、前を見て進まなくちゃ」

しかしのび太君は、
「どうせろくな未来じゃないさ。頭も悪いし、何やっても失敗ばかり…ずっと子どものままでいたいな」と言い返し、ドラえもんも呆れて部屋を出て行きます。

その時のび太君は、取り出した物の中にあつた**小さなダルマ**を見つけました。それは、亡くなったおばあちゃんが昔、幼いのび太君にくれたものでした。

庭で転んで泣いていたのび太君を、そのダルマを使って慰めてくれたおばあちゃん。



「のびちゃん。ダルマさんはえらいね。なんべん転んでも、泣かないで起きるものね。のびちゃんも、ダルマさんみたいになってくれると嬉しいな。転んでも転んでも一人でおっきできる強い子になってくれると…、おばあちゃん、とっても安心なんだけどな」

当時ののび太君はおばあちゃんに、
「ぼくダルマになる」と約束しています。
今は亡きおばあちゃんとの最後の思い出に頬を濡らしたのび太君は、やがて立ち上がり、机に向かって勉強を始めます。

「ぼく一人で起きるよ。これからも、何度も何度もころぶだろうけど…。必ず起きるから安心してね、おばあちゃん」



「天国と地獄」



←左の写真は、栃木県益子町にある「西明寺」の「焰魔(えんま)堂」にある「笑い閻魔(えんま)」

むかし、ある男がえんま大王様に会いに行き、天国と地獄というのは、どういう世界なのかを聞きました。すると、えんま大王様は、男に、天国のようすと地獄のようすを それぞれ見せてくれました。

どちらも綺麗な花が咲き、水が流れ それはそれは美しい場所でした。テーブルにはおいしそうなおちそうも並べられています。しかし「地獄」の住人は皆、がりがりにやせこけていて、目は血走り気が立っている様子。

「こんなにも美しい世界で、いっぱいごちそうが用意されているのに、なぜ人々は飢えて気が狂いそうなんだろう」

やがて食事の時間を知らせる鐘が鳴りました。

「天国」の住人にも「地獄」の住人にも、たった一つ与えられた条件があります。

1メートル以上の長い箸を使って食べなければならない。

「地獄」の住人は鐘がなると一斉に長い箸をつかみ、我先にと一生懸命ごちそうを食べようとしています。しかし、箸があまりにも長すぎるので悪戦苦闘。せっかく箸ですくった食べ物を落としてしまったり、箸が長すぎるために隣の人とぶつかり

「食べ物が自分の口に入らないのはお前のせいだ」と互いをののしり合い、他人の食べ物を横取りしようとして、けんかばかり。そんなことをしている間に食事の時間は終了。それは見るに耐えない光景でした。

次に「天国」の住人の様子を見に行きました。皆ふくよかで笑顔が絶えず、幸せそうな様子です。「地獄」の住人と条件は全く同じ。1メートル以上の長い箸を使って食べなければならない。しかし、「天国」の住人はおいしい料理をお腹いっぱい食べることができています。

あなたは、なぜかわかりますか？

「天国」の住人もいよいよ食事の時間がスタートです。

「天国」の住人は長い箸で食べ物を挟むと、向こう側の人の口に入れてあげます。その人もまたこちらに食べ物を運んできてくれます。お互いに仲良く他の人とごちそうを分け合っていたのです。

その長い箸を**自分のために使うのではなく、周りを喜ばせるために使っているのです。**

そういうことが自然に行われている世界でした。

だから「天国」の住人はいつも**笑顔を絶やさずとなく**幸せいっぱいなのでした。

天国も地獄も実は同じ場所。天国と地獄の分かれ目は、「自分さえ良ければ、人の事なんてどうでもいい」という考えを持つのか「まずは相手のことを大事に」という考えを持つのかで決まるのです。心構え一つで、**小野中学校は、「天国」にも「地獄」にもなるのです。**

「互いに助け合う心、思いやる心」いっぱいの小野中学校にしたいですね。

